

家庭科を応援する情報誌

最新 家庭科情報

2006年冬号 No.2

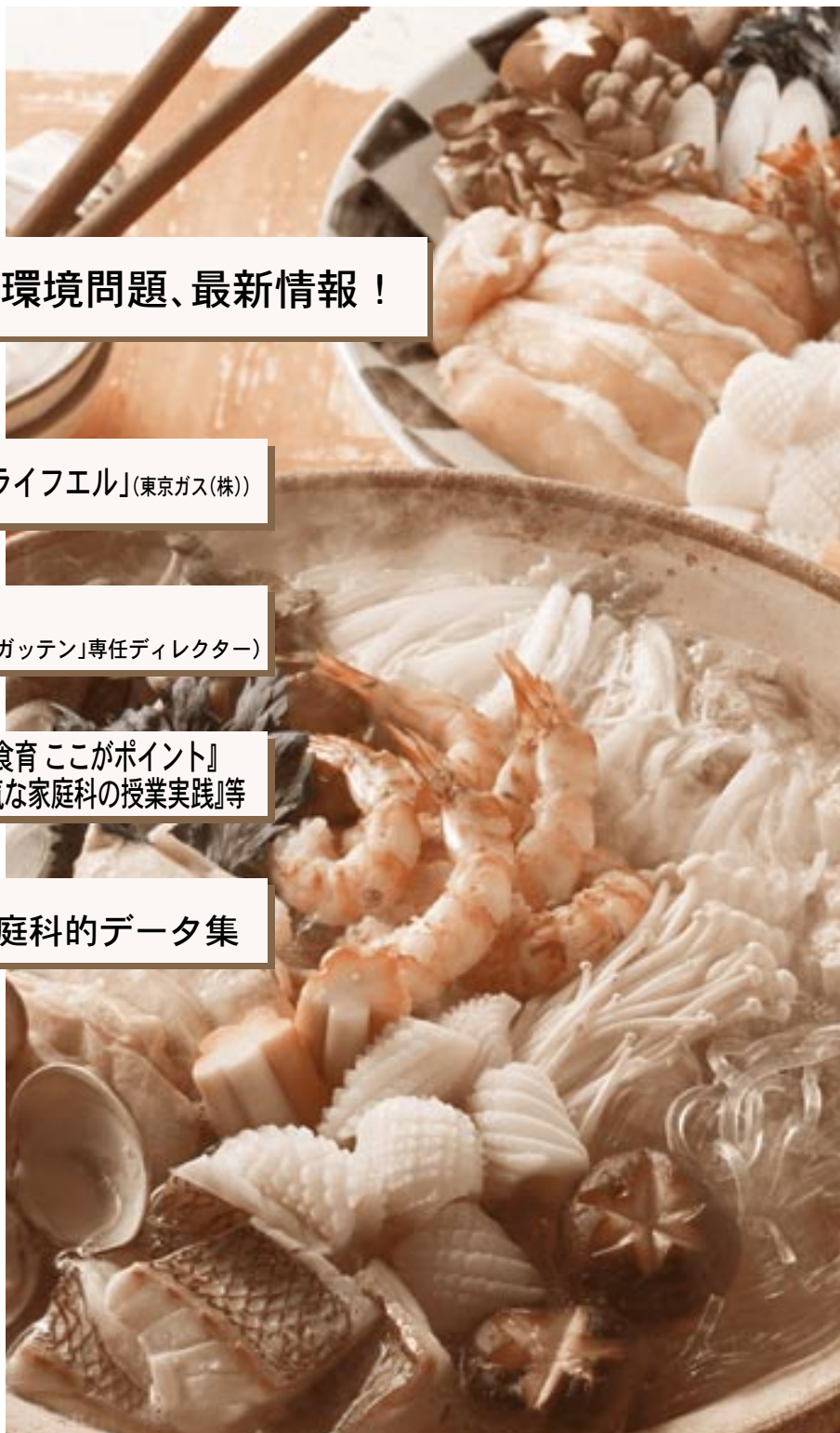
特集 家庭生活と環境問題、最新情報！

**家庭科
テクノロジー** 家庭用燃料電池「ライフエル」(東京ガス(株))

**家庭科
応援団** 北折 一さん
(NHK「ためしてガッテン」専任ディレクター)

**家庭科
ブックマーク** 『食品の裏側』、『Let's食育 ここがポイント』
『10年後の日本』『元気な家庭科の授業実践』等

**家庭科
データベース** '05 '06
10～1月の家庭科的データ集



「環境問題は、単純化して考えられないことがよくわかりました。では、どのような姿勢で生活をしていくのがよいのでしょうか。」

「私たちは環境問題のために生きていくわけにはありません。環境問題のことだけを考えているわけでもありません。しかし、環境問題は私たちが暮らす地球の問題です。何が科学的にわかっているのかなど情報を整理して、自分の頭で考えて、かしく生きるのが大切です。ただ言われたか

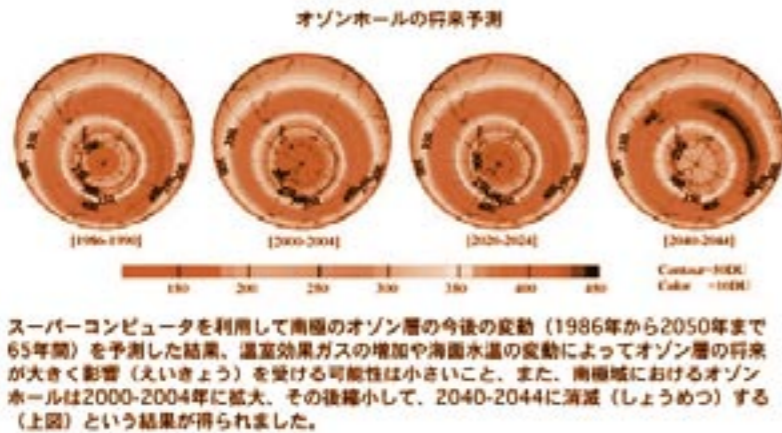
「環境問題は、長い視点が必要になってきます。また、環境問題については、言葉に対してアレルギー・思いこみがある場合もあるようです。例えば、「農業」というと非常に心配される方もありますが、風邪薬にはそれほど関心がないということもあるかもしれません。双方、人工的な化学物質であることには変わりがなくとも、自分の意志で飲むものと、知らずに飲まされるものの違いということもあるでしょうね。誰しも未知なものには恐怖感があります。知らないということがおびえを生むこともあります。良い面と悪い面をきちんと理解して判断していくことが大切です。」

「環境問題について情報を得るにはどのような方法がよいのでしょうか？」

「やはり、現在ではインターネットで調べるのが一番ですね。国立環境研究所が運営している「E-ICネット」やその他にもいろいろな環境問題のサイトがあります。そこから研究するのがやりやすいでしょう」（次ページ参照）

「勉強不足から、環境問題について何か明確な答えを聞かせていただけるとは、などと虫のいい期待をしてお話をうかがいにいきましたが、環境問題とはそんなに甘いものではないということがよくわかりました。よくわかっていない分野も、まだあるようです。しかし、現在の生活生活が続いていくことはできないということだけは、は

図4 オゾンホール将来予測



（国立環境研究所ホームページより）

つきりしています。環境問題は、私たち自身の人生、生活の問題として、これからの家庭科が取り上げていかななくてはならない、非常に重要な課題の一つといえるのではないのでしょうか。

「そこで、環境について最先端の研究を行っている「独立行政法人 国立環境研究所」企画・広報室の広兼さんに、家庭生活と環境、環境問題の情報収集についてお話をうかがってきました。」

「昨年の台風、今回の大雪などは、地球温暖化の原因といえるのでしょうか。」

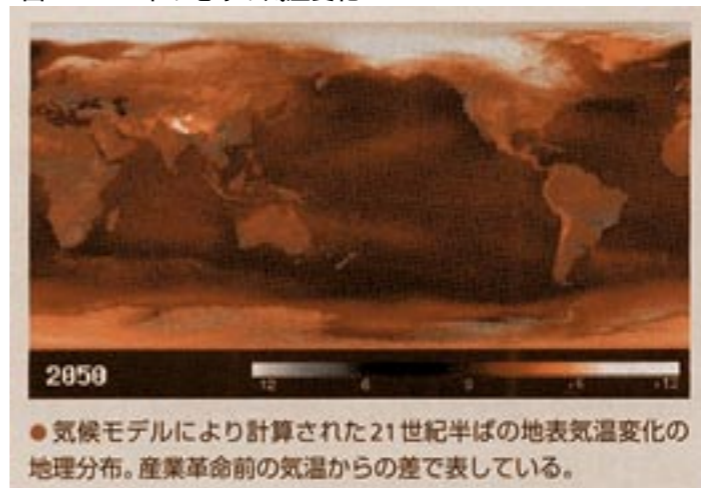
「それはわかりません。地球温暖化による温度上昇速度は自然の変動を大きく上回ります。しかし、自然にはゆらぎとよばれる変動がもととなり、地球温暖化の有無にかかわらず、例年より暑い夏や逆に涼しい夏、寒い冬や温暖な冬などはときどき起きています。さらに、もっと長い周期で起こる氷河期などの気候変動も加わります。したがって、昨年の台風頻発や今年の大雪が地球温暖化によるものか、自然のゆらぎによるものかは判別しにくいのです。ただし、このまま地球の温暖化が進むと大気中の水蒸気が多くなり、台風や降雨が多くなる可能性は高いと見られています。地球温暖化が進むと、一〇〇年後には世界の平均気温が最悪の場合、5.8度も上昇する可能性があると言われていて、5度も地球の平均気温が上昇するということは大変なことですよ。地域的な温度上昇のばらつきもあり、北半球の陸域ではもっと温度があがるといわれています。私たちの研究所では、大学などと協力し、地球温暖化により将来の地球の温度分布がどうなるかをスーパーコンピュータ

で予測する研究を行っています。その結果の一部が図3です。天気予報もスーパーコンピュータを利用してしています。天気予報同様、地球温暖化の予測も細かい点は当たらない可能性はあります。しかし、時々当たらないから天気予報を見ないという人も少ないでしょう。地球温暖化予報がはずれることを期待するのは間違いで、今の生活を見直し、できるだけ無駄なエネルギーを使わないように、ウォームビズやクールビズ、車のアイドリングストップなどできることから行動することが大切です。世界中の人が今の日本人のような生活を続けたら、残念ながら地球温暖化を防止することはできないでしょう。」

「私たちが行う環境にやさしい行動は、どのくらい環境問題の解決に役立っているのでしょうか。」

「環境問題は、多くの要因が複雑に折り重なって起こります。そのため、解決策も一朝一夕にかたのつくものでも、すぐに効果が現れるものでもないことが多いです。たとえば、冷蔵庫の冷媒として使われていたフロンガスが原因となって起こったオゾン層の破壊について、一九八七年のモントリオール議定書によって規制が始まりましたが、現在でも南極のオゾンホールは小さくなっていないのです（次ページ図4参照）。あと10年くらい経つと成層圏のフロンガス減少が観測され効果が出てくると予測されていますが、これもきちんと

図3 2050年の地球の気温変化



（国立環境研究所パンフレットより）

国立環境研究所とは
今回お話をうかがいに行った「独立行政法人国立環境研究所」は、日本における環境研究の中心的な役割を担っている研究機関。理学、工学、農学、医学、薬学、水産学から経済学、法学まで、異なる分野の専門家が協力して、ありとあらゆる環境問題に取り組んでいます。

環境問題に関するおすすめサイト！



EICネット (<http://www.eic.or.jp/>)
 国立環境研究所が運営する、環境情報や交流のサイト。ワンポイント・エコライフから、新着海外ニュースまで、環境に関するすべてを網羅。丁寧なリンク集、用語集がうれしい。



国立環境研究所 (<http://www.nies.go.jp/>)
 今回お話をうかがった、「国立環境研究所」のサイト。環境についての最新の知見を調べることができる。施設見学の申込みもできるので、お近くの方は是非。



環境省ホームページ (<http://www.env.go.jp/>)
 日本の環境問題に関する総本山。非常に詳しいが、内容というか表現が難しい。統計資料や法律などが充実している。



環境goo (<http://eco.goo.ne.jp/>)
 NTT-Xが運営する環境に関するポータルサイト。環境に関する最新情報、ライフスタイルの情報、企業の取り組みなどを調べることができる。



消費者の窓 省庁等の消費者政策及びその関連政策の動向 (<http://www.consumer.go.jp/tashouchou/seisakudokou-top.html>)
 こちらは、内閣府「消費者の窓」の中のコーナー。各省庁ごとに消費者政策を紹介。更新されているのがわかりにくいのが玉に瑕ですが、調べたい内容が決まっているときは便利。



国民生活センター 役立つ生活情報 中央省庁 (http://www.kokusen.go.jp/g_link/index.html)
 国民生活センターの中のコーナーで、時系列に沿って、中央省庁が発表した暮らしに関する情報をまとめたページです。まさに旬の情報を拾うのに最適。

コラム
 ネットバレ御免
最近できた便利なサイト
 最近ネットで情報検索をしていて、信頼性があって「お、こりゃ便利」というサイトが開設されたのでご紹介いたします。是非、ご活用ください。

家庭用燃料電池「ライフエル」(東京ガス(株))

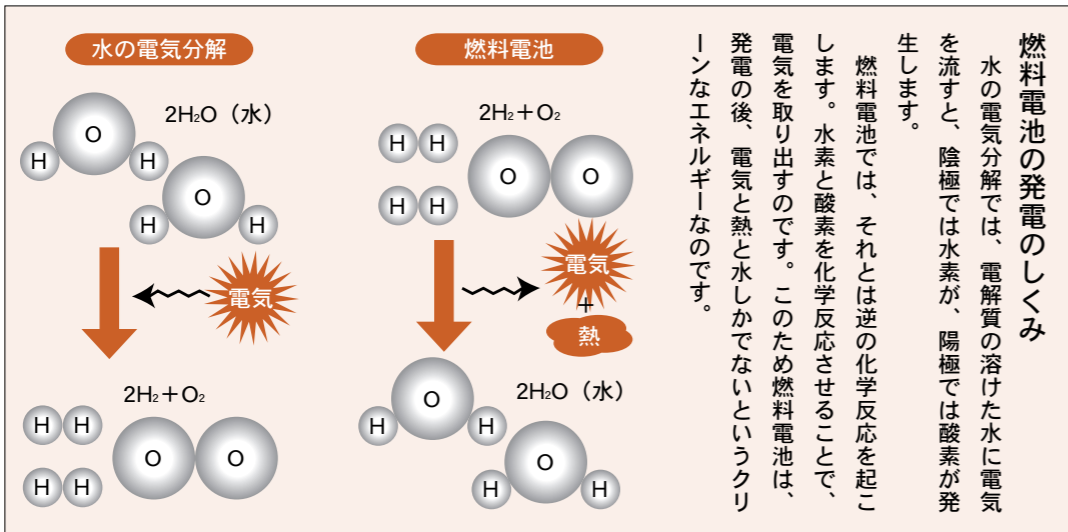
私たちの生活にかかわる技術は、ものすごい勢いで進んでいます。家庭科にかかわる最先端技術の製品についての突撃レポート、今回は環境にやさしい世界初の製品です。
 燃料電池ってご存じですか？CO₂をあまり出さない、環境にやさしいエネルギーとして、話題になっていきましたが、実用化されるのはまだまだ先の話、家庭に入ってくるのはもっともっと先の話だと思っていました。ところが、実は家庭用燃料電池はすでに実用化されていて、それも昨年末には導入が一〇〇台を突破していたとのこと。勉強不足に頭をかきながら、さっそく東京ガス(株)さんへ、燃料電池についてお話をうかがいに行ってきました。

今私たちが使っている電気は、発電所でつくられたもののエネルギーの何パーセントか知っていますか？実は、37%なんです。残りの63%は捨てられているんです。燃料電池は、電気だけを見ると現在31%の利用効率なのですが、電気をみるときに発生する熱を利用することで、71%までエネルギー利用率を高めることができます。

「燃料電池」って、どのようなものなんでしょう？
 燃料電池とは、一言で言ってしまうと、水の電気分解の逆の化学反応を利用して、「水素」と「酸素」から電気をつくる発電システムのことです(下の囲み参照)。東京ガスでは、二〇〇四年十一月、世界で初めて家庭用の燃料電池コージェネレーションシステム(発電と同時に発生する熱で給湯などを行うシステム)を実用化しました。その第一号機は、首相官邸に設置されているんですよ。



今回、燃料電池について丁寧に教えてくださった、東京ガスの青木さん(右)と池田さん(左)。1台1億数千円の燃料電池自動車の前。環境にやさしい車ということでナンバーは「83-41」(やさしい)。





「ライフエル」の制御パネル。現在の消費電力と発電量がリアルタイムで表示されます。つつい見えてしまうため、さらに省エネ効果があがるということです。

「ライフエル」だけで電力はまかなえてしまうのですか？
 現在「ライフエル」で発電できる電気の量は、一キロワット時となっています。四大家族がくらす場合、ピーク時に三〜五キロワット時といわれていますので、足りない部分は電力会社さんから購入していただくこととなります。
 実は燃料電池だけで五キロワット時の発電を行うこともできるのですが、その際にできるお湯の量が非常に多くなってしまい、使いきれないので

削減量は、だいたい一三〇〇㎡の森林が吸収するCO₂の量にあたります。
 さらに、「ライフエル」は生活に合わせて発電量を調整したり、お湯がいっぱいになると自動的に発電を停止するなど、無駄が出ない運転をするように設計されています。

「ライフエル」は誰でも買えるのですか？

一キロワット時に抑えているのです。
 「ライフエル」は、有償モニターという制度をとらせていただいています。東京ガスの所々のまま一〇年間お使いいただく形ですが、契約料として、一〇〇万円をお客様にご負担いただいております。月々の費用は、ガス代がちょっと上がり、電気代は約半分になりますので、だいたい年間に三万円安くなります。さらに、「ライフエル」をご利用の方には、月々のガス代を3%割引引きし、お支払い額の上限が九五〇〇円という燃料電池用のガス料金メニューを用意していますので、これを使うと年間六万円ぐらいは安くなるのですが、やはり一〇〇万円を回収できるかというところと難しい状況です。それを納得いただき、運転データのモニタリングや使用感についてのアンケートにお答えいただくことに同意していただいた方に、ご利用いただいております。
 また、広く一般の方に販売させていただくのは、二〇〇八年を目標に進めております。

最後に「ライフエル」では、水素を使うということでしたが、安全性はどうなのでしょう？



<http://www.tokyo-gas.co.jp/pefc/index.html>

東京ガスさんのホームページ上でも、燃料電池について詳しい解説がありますので、是非見てみてください。

家庭用燃料電池「ライフエル」の中身

これが家庭用燃料電池「ライフエル」です（左写真参照）。ずいぶん、大きいと思うように思われるかもしれませんが、実は燃料電池自体は左側にある小さな方の箱です。では、右の大きなものは何かといいますと、中に二〇リットルの貯湯槽が入ってしまっていて、燃料電池で電気をつくった



家庭用燃料電池「ライフエル」。2種類あるのは、メーカーが違うためです。右が荏原バロード株式会社グループ製、左が松下電器産業株式会社製。性能はどちらも同じです。

ときに発生する熱で、お湯をつくり貯めているんです。これが、先程言っていたエネルギー効率を上げている部分なんです。

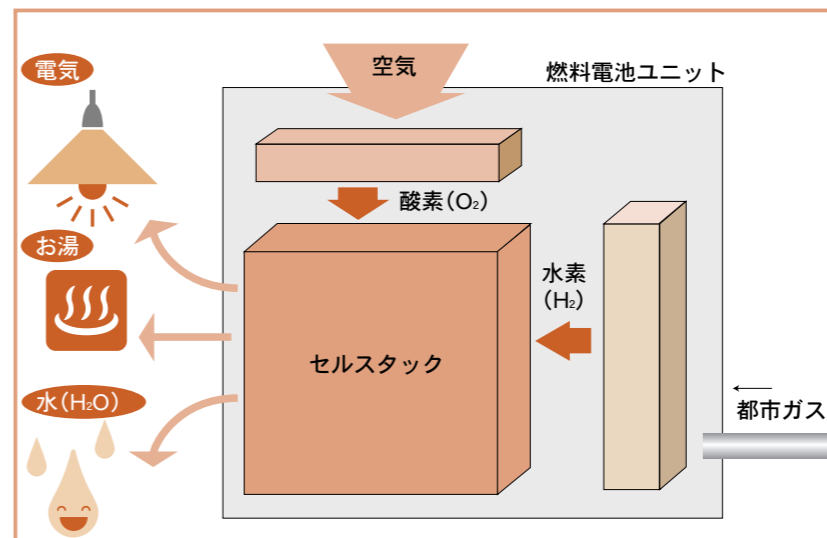
「ライフエル」のしくみは下図のようになっていきます。都市ガスの主成分のメタンは、石油や石炭などに比べて二酸化炭素排出量の少ない、地球にやさしい化石燃料ですので、都市ガスでつくる電気も地球にやさしい電気と言えるわけです。しかし、現在は水素をとった残りの炭素は二酸化炭素として排出されますので、完全なCO₂フリーにはなっていないです。純粋な水素を用いて燃料電池を動かせば、完全に二酸化炭素を排出せずに発電できますが、水素は自然界には存在しておらず、現在は、都市ガスや石油などの化石燃料からつくる方法が主流です。

「ライフエル」はどれぐらい環境にやさしいか

具体的に、一キロワット時の発電時のCO₂排出量を比較してみると、火力発電の場合では、約〇・六九kg・CO₂ですが、「ライフエル」の場合は、約〇・六〇kg・CO₂となります。また、給湯による熱回収もあわせて考えると、従来のシステム（火力発電の電気と従来のガス給湯器でお湯をわかすシステム）と比べて、約40%もCO₂の排出量を減らすことができるのです。一軒のご家庭が一年間「ライフエル」を利用した場合のCO₂

家庭用燃料電池「ライフエル」のしくみ

都市ガスの主成分であるメタンから水素を取り出し、セルスタックという部分で、空気中の酸素と反応させて、電気を作り出します。同時に、その時発生する熱で、お湯をわかします。



水素と聞いて、危ないと思われる方もいらっしゃると思いますが、実際はその都度、水素をつくって反応させてしまいますので、中にあるのは百円ライターぐらいの量だけです。また、各種センサー等で安全性には万全を期しておりますので、万が一にも爆発するようなことはありません。

環境対策の切り札とも言われている燃料電池ですが、実際に見た家庭用燃料電池は、まだ少し大きく威圧感もありました。しかし、きっと数年で見違えるように小型化され、性能も格段によくなり、価格も下がるのではないのでしょうか。燃料電池自動車にも乗せていただきましたが、非常に静かで、エンジンをかけるとマフラーから水がとび出てくるのが衝撃的でした。

第二回 北折 一さん（NHK「ためしてガッテン」専任ディレクター）

家庭科は生き方科ですね

家庭科業界以外の方に家庭科の魅力を語っていただく「家庭科応援団」。第二回は、先生方に大人気の番組、NHK「ためしてガッテン」（総合テレビ 毎週水曜夜8時）の専任ディレクター、北折 一さんです。スタート当初から制作に携わってこられ、「ためしてガッテン」の生き字引のような方です。どうやって暮らしにかかわる情報を、わかりやすく楽しく伝えるのか、その秘密を教えてくださいました。家庭科の授業にも応用が利きそうですね。

—現在の家庭科についてご存じですか？
 中学・高校の時はまったく家庭科の授業を受けなかったんです。だから、家庭科といえは、小学校のときの料理、裁縫というイメージでしたね。消費生活アドバイザーをしている関係で、去年東京都の教員向け講座で講師をしたんですが、そこで知り合った家庭科の先生方とメールで文通したり、先生の作ったホームページを見たりして、びっくりしました。家庭科ってあんなにも幅広い内容を扱っていたんですね。

—「ためしてガッテン」のテーマは、とても魅力的なのですが、どのように決めているのですか？

「ガッテン」も丸11年になりました、はつきりいってもうネタは出し尽くしてしまっただけです。日常生活の中でまだやってないのは何だろうって、ディレクターやその家族が血眼になってネタを探しています（笑）。

「ガッテン」では、まず「マグロ」なら「マグロ」のように題材を決めちゃって、その後一番お伝えすべきことは何かをどんどん追求しながら作ります。マグロの回は「バックの冷凍モノをどう

おいしくするか」だけに絞りました。情報量を極力減らして、深く濃く扱う。「知る喜び」より「わかる喜び」を味わってもらいたいからです。こちら側の一番伝えたいことが見えている側が聞きたいこととピッタリ合うと、最高に気持ちいいのですが、実

を言うと「皆さんが本当に知りたかったのは、これでしょ」という方向にこっさり持っていったんですね。そう思わせるテクニクを使うんです。

—そのテクニクは家庭科の授業でも応用が利きますか？

十分利くと思いますよ。先生方の指導案をいくつか見たことがあります。NHKと先生方は同じ過ちを犯しやすそうですね。「伝えるべきこと」をたくさん持っているからこそ逆に伝わりにくい。大切なのは情報を受け取る側の気持ちをコントロールしながら伝えることです。そのためには思い切った情報を捨てても、ついつい知りたくなる気持ちを植え付けたり、掘り起こす必要があります。

込まれてきます。続きを聞かざるを得なくなるわけです。

また、「禁煙」を扱った回は、「喫煙は体に悪い」ということを一言も使わないと最初に宣言したこともありました。「喫煙が体に悪い」なんているのはいつも聞いていますし、興味を閉ざすものになるからです。

「わかりやすい」を目標にしたらダメ

「ガッテン」では、情報そのものよりも、その情報に至る道筋を重視しています。これを「落とし穴理論」と呼んでいます。落とし穴をつくるときに一番大切なのは、何だと思えます？ それは落とし穴まで連れてくる道です。

伝える「べき」ことに囚われると、なるべくよい落とし穴を作ることには終始してしまいがちですが、「どうやって連れてこようか」と作戦を立てるときの方が楽しいはずですよ。

「ガッテン」では、大がかりな模型を使って説明するのが人気ですが、これは「わかりたい気持ち」をピークに持っていつてその瞬間に出すから見事にハマるんです。どんな動きでわかりやすく面白く見せるか考えるのも大切ですが、それだけじゃダメなんです。何かを伝えるとき、つい「わかりやすく」ばかり考えますが、「わかりたいくなる」を目標にしたほうが、相手を得るものも大きいですね。



「ついつい知りたく」がミン

「ガッテン」では、オープニングの後、6〜7分かけて3問のクイズを行います。それはテーマとはまったく関係ないクイズです。「イワシの美味しい食べ方」のときなら、イワシは逃げるときに音を出すと、ポルトガルのイワシばかり食べる祭など楽しい話題にします。知らず知らず考えちゃって、ついついもつと知りたくなってきます。この「ついつい」というのがポイントなんです。指導案で導入部にクイズを用意されていることもありますが、こうあるべきだとばかりに強引に本論に関連付けようとして、「いきなりそんなのわかるかよ」みたいな出題になってないか（笑）、チェックしてみてください。

—今生活に関する情報が非常に氾濫していますが、正しい情報を見分ける方法がありますか？

はつきりいって素人には難しいでしょう。たとえば、大学の先生が言ったことに対して、その先生のレベルは判断できませんからね。とにかく情報を鵜呑みにはしないことです。そのための方法論として「行動に移すときに、たとえば健康食品を買おうとした瞬間などに、テレビであんなこと言っていたけど本当かな、と思いついて疑う気持ちを持つ」という習慣をつけるのが、訓練法としてはいいと思います。

—家庭科の先生へ一言メッセージをお願いします

「家庭科」って名前の響きがよくないですね。内容的には、完全に「生き方科」ですよ。まあ「生き方科」とか言う余計なことをしないでいい。でも教員の中ではいちばん有利なポジションにいると思うんです。だって生徒たちに生き方やものの見方・考え方を、そればかり直接教えるチャンスをもっているんですから。

学校の先生たちはみんな、教科の内容を教えたくて先生になつたわけじゃなくて、子どものころに巡り会ったすばらしい先生にあげられて先生になりたいと思っただけじゃないでしょうか。生き方を教える家庭科の先生は、そのすばらしい先生になれるチャンスが一番あると思います。応援します！



私たちの番組が情報を伝えるときに編み出したテクニクが、いくつもあります。その中の一つが「デモジャー方式」です。「おいしいチャーハン」の作り方を例にすると、「ばらばらとしたチャーハン、おいしいですよ」「でも、家で作るとなぜかべちゃべちゃしてしまいますよね」「じゃあ一体どうしたらいいの？」というように話を進めます。番組冒頭でお客様の関心を捕らえるためにほぼ毎回使っています。「〜ですよね」という言葉もよく使いますね。これで共感を得るのです。

そこからさらに心をつかむのが「なんだろうー感」です。「おいしいチャーハンをつくる秘密は、マヨネーズ効果なんです」というと、見ている人は「え？ マヨネーズ効果ってなに？」と引き

食品の裏側



●BOOKデータ
著者 安部 司
出版社 東洋経済新報社
体裁 B6判・二四八ページ
定価 一、四〇〇円(税別)

食品添加物の商社のトップセールスマンだった著者が、食品製造の「舞台裏」を告発する本。今の世の中、食品添加物を口にしない食生活はかなり難しいが、本の帯に「知れば怖くて食べられない」とある通り、この本を読んだあとに気持ちよく食べられなくなってしまう食品がいくつもある。

「コーヒーフレッシュの材料は水と油と食品添加物だけ」「ドロッロのクズ肉に大量に添加物を投入してつくるミートボール」「殺菌剤やpH調整剤のプールを泳いだカット野菜やパックサラダを、人々は健康のためにと言って食べている」などなど、ほかにさまざまな衝撃的な事実が語られている。しかし著者は、食品添加物を否定しているわけではなく、ラベルに表示されない裏側の部分の情報公開のためにこの本を書いたという。食品添加物を目の敵にして拒否するのではなく、どう付き合うか、どう向かい合うか、どこまで自分が許せるのかを考えることが大切であるという。本文では、未来の食生活のためには家庭科での教育も重要であるとして、「食品添加物テスト」も掲載している。

Let's 食育 こころがポイント



●BOOKデータ
編著 金子佳代子 著者 大森桂ほか
出版社 アイ・ケイコーポレーション
体裁 A5判・一三六ページ
定価 二、〇〇〇円(税別)

最近、新聞やテレビを見ていて「食育」という言葉に出会わない日は少ない。食育は、これからよりいっそう推進される必要のあるものであるが、「食」を扱えばなんでも「食育」というわけではない。子どもたちが自分で食生活を選択・管理できるようにするために、家庭科の果たす役割は非常に大きい。

この本には、小・中・高等学校での授業実践が紹介されている。それぞれの年齢に応じた、食の自己管理能力の育成を目標とした授業実践である。授業の中で交わされた先生と生徒の会話がそのまま掲載されているので、先生の質問に促されるように、読者もどんどんその授業に引き込まれてしまう。どの実践でも、生徒の何気ない一言を先生がうまくひろいあげ、興味と知識、実生活に結び付けている。きっとこの授業を経験した子どもたちは、実生活のさまざまな場面で「あ、これは家庭科の授業で…」と思いつくことだろう。わたしたち教科書編集者がいくらがんばって教科書や教材をつくっても及ばない、現場の先生の力の大きさを実感した一冊だった。

10年後の日本



●BOOKデータ
著者 『日本の論点』編集部編
出版社 文藝春秋
体裁 新書判・二四〇ページ
定価 七三〇円(税別)

47項目の社会問題が取り上げられ、それぞれの10年後が予測されているが、「消費税二桁化」「離婚ラッシュ」「500万人のフリーター」「ひきこもりの高齢化」など、目次を読んだだけで、なんとなく暗い気分になってしまった。そして、読み進むとさらに暗い気分……。10年後といえば、今の中高生が大人になり、社会に出て数年経ち、それぞれの場で活躍しているところである。この予測すべてがその通りになるわけではないだろうが、「うーん」と考え込んでしまうような予測が多く、漠然とした不安な気持ちが残る。

取り上げられている項目は、家族と子どもの未来、高齢社会など、家庭科にかかわることも多く、さまざまな統計データをもとに簡潔に述べられている。未来の生活をつくり出すのは、今を生きているわたしたちである。子どもたちの未来に大きな影響を与える家庭科の授業のヒントに、10年後の世界をのぞいてみては？

北海道発 元気な家庭科の授業実践



●BOOKデータ
著者 北の家庭科を考える会
出版社 教育図書
体裁 B5判・一四四ページ
定価 二、六〇〇円(税別)

「家庭科を元気にしたい」という願いをこめた新シリーズの第一弾。新課程が始まってからの北海道の実践を紹介している。可能な限り、授業の様子や生徒の反応などがわかるよう、生徒の感想や写真などの資料を意図的に掲載。これまでの実践事例集よりも生き生きした報告であることを配慮して構成されている。また、次の授業につながるために、実践に対する率直な批評(武藤八恵子先生)と、その批評をふまえた先生方の座談会を収録している。多忙で、かつ制約の多い日常の中で、どのように授業を組み立てていけばよいかという問題に対するヒントになり、家庭科の先生方がつながっていくことを願って。

キラリ輝いて



●BOOKデータ
著者 のさきえつこ
出版社 文芸春秋
体裁 A5判・八四ページ
定価 一、一〇〇円(税別)

京都府立高等学校家庭科研究会所属のさき先生の詩集です。二〇〇四年福祉歌謡歌詞募集で最優秀賞を受賞。テーマは「日々を生きる喜び」

家庭科関連の最新統計データを集めた「家庭科データベース」。最新情報を是非、授業にお役立てください。なお、各データの詳細は、各調査のホームページをご覧ください。

最近の子どもは早寝早起き型が増加

● 十月五日 株式会社ベネッセコーポレーションのシンクタンク「ベネッセ教育研究開発センター」が「第3回幼児の生活アンケート調査」結果速報を発表
http://www.benesse.co.jp/news/relase/20051005_kenkyu.html
 ・1995年、2000年に続く三回目の基本調査で、過去10年間の変化がわかる。今回の調査では、幼児の生活は5年前に比べ「就寝時刻が早まり」「テレビ視聴時間は減少」「習い事の開始が低年齢化」「保護者とのかわりは強まる」という傾向がみられた。

66%の人が「負担増でも社会保障充実を」

● 十月二十四日 内閣府が、高齢社会対策に関する特別世論調査（平成十七年九月）を発表。
<http://www8.cao.go.jp/survey/tokubetu/h17/h17-kourei.pdf>
 ・社会保障制度の水準や負担のあり方について「たとえ現役世代・将来世代の税や保険料の負担を増やすことになっても現在の水準はできるだけ維持すべきだ」44・4%、「より充実を図るべきだ」22・0%で、合計66・4%

%。一方、「負担を増やさないためには、水準が下がってもやむをえない」は22・2%。

NPOの意味を知る人は全体の40%

● 十月二十九日 内閣府が、NPO（民間非営利組織）に関する世論調査を発表
<http://www8.cao.go.jp/survey/h17/h17-npo/index.html>
 ・「NPO」という言葉を知っているか聞いたところ「知っている（意味もわかる）」と答えた者の割合が39・7%、「意味はわからないが見たり聞いたことがある」と答えた者の割合が45・5%、「見たことも聞いたこともない」と答えた者の割合が11・9%。また、過去5年間にNPOが行う活動に参加したことがあるか聞いたところ「参加したことがない」と答えた者の割合が91・8%という結果に。

障害者自立支援法が成立

● 十月三十一日 衆議院本会議で、障害者自立支援法が可決、成立。平成十八年四月から順次実施
<http://www.nhlw.go.jp/topics/2005/02/tp0214-1.html>
 ・身体・知的・精神の障害と異なる福祉サービスを一本化するとともに、利用者に原則1割の負担を求めることなどを柱としている。

愛犬の家庭内順位は家族の誰かより上位

● 十一月二日 花王株式会社・生活者研究センターが、「飼い主と愛犬の接し方」に関する意識実態調査の結果を発表
<http://www.kao.co.jp/corp/news/2005/4/n20051102-01re.html>
 ・90%が「愛犬を家族の一員」と考え、41%が「一緒に布団で寝る」、30%が「自分の生活の愚痴を聞いてもらう」といったように、飼い主と愛犬は親密な接し方をしている。また、43%が「愛犬の家庭内順位が家族の誰かより上位」、52%が「おやつをよく与える」、32%が「人の食べ物を欲しがるとつい与えてしまう」といったように、本来の飼育方法からみて適切とはいえない接し方をしていることも明らかになっている。



健康食品に月4700円

● 十一月十四日 (株)日本リサーチセンターが「健康食品の利用に関する全国実態調査」を発表
http://www.nrc.co.jp/rep/pdf/rep20051114_01.pdf
 ・健康食品ブームが本物かどうかを検証するため、どのくらいの人々が「健康食品」を利用し、どのくらいお金をかけているのか、などを全国の一般男女を対象に調査。ほぼ60%の人が健康食品を日常的に利用し、1カ月間に約4700円使うという。



虐待相談件数は3万3408件

● 十一月十四日 厚生労働省が「平成十六年度社会福祉行政業務報告結果の概況」を発表
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/saikin/hw/gyousei/04/index.html>
 ・児童相談所における虐待相談の処理件数をみると、平成十六年度中に児童相談所が処理した虐待相談のうち「虐待相談の処理件数」は33408件で、前年度に比べ6839件（前年度比25・7%）増加している。

約8割が環境税を容認

● 十二月五日 環境省が「環境税に関するアンケート調査結果」を発表
<http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=6616>
 ・環境税の世帯あたりの負担額は、月額約1800円。この金額を家庭や企業が負担することにより、例えば・森林整備520万ha分・太陽光発電50万戸分・風力発電1820基分・エコ住宅90万軒分・エコビルディング3・3万棟分・クリーンエネルギー自動車35万台分の普及を後押しすることができるという。この環境税の提案を「受け容れる」と答えた人は全体の26・6%、「どちらかと言えば受け容れる」と答えた人は51・1%、合わせて77・7%で、約8割の人が環境税を容認しているという結果が出た。

日本人人口 初の減少

● 十二月二十二日 厚生労働省が「平成十七年人口動態統計の年間推計」を発表
<http://www.nhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suikou5/index.html>
 ・出生数から死亡数を引いた「自然増加数」はマイナス1万人で、統計を取り始めた1899年以来初の「自然減」となることが明らかになった。日本に住む日本人の人口は2005年に初めて減少に転じた。

もったいないのは「寝過ぎた時間」

● 一月七日 セイコー株式会社今年成人式を迎える新成人男女を対象に行った「時」の意識に関するアンケート調査を発表
<http://www.seiko.co.jp/nihongo/shinseijin/index.html>
 ・さまざまな質問に対する回答から、新成人が「今」をどう捉え、「時」に対してどのような意識を持っているかが垣間見える。あなたが「もったいない」と思う時は？と聞いたところ、男女問わず「寝すぎた時間」との答え。次いで「ダラダラ過ごした時間」と、その時間があつたらもつと他に有意義な事ができたはずなのに、といった反省が多く見られた。ほかに、いま最も輝いている「時の人」は誰かとの設問に対しては、女性部門では女優の伊東美咲さん、男性部門ではお笑いタレントのレイザーラモンHGさんが第1位に。



新刊教材モニター大募集！

「2006年版家庭科教材カタログ」はもうご覧いただけましたでしょうか。本年も教育図書は、先生方の授業をサポートするさまざまな教材を開発いたしました。

その新刊教材について、実際に授業でお使いいただき、使用感、その他ご意見をお寄せいただける「新刊教材モニター」を大募集します。そして、モニター終了後は、なんとお使いいただいた教材を謝礼としてプレゼント。

まず第一弾は、大好評をいただいた食品カード「フードマスター」を完全リニューアルした「Newフードマスター」！

詳しい内容の確認、お申込は、教育図書ホームページ (<http://www.kyoiku-tosho.co.jp/>)にてお願い申し上げます。

第一弾モニター
対象商品

Newフードマスター



いちご

ここがポイント！

- ・全食領域を通して使える便利なマグネット付き食品カード！
- ・大判なので、教室の後ろまでよく見えます（当社比2倍）
- ・食品の特徴がよくわかる鮮明な写真を使用！
- ・多くの活用法を紹介した丁寧な解説書、追加のデータ収録のCD-ROM付き

(このカードは縮小されています。実際の大きさはカタログをご覧ください)

家庭科を応援する情報誌
最新 家庭科情報
2006年冬号 No.2

発行者：山田雅俊
発行所：教育図書株式会社
〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町6
TEL. 03-3268-5141 (代)
FAX. 03-3268-5180・5220
URL. <http://www.kyoiku-tosho.co.jp/>
メールアドレス joho@kyoiku-tosho.co.jp

編集後記：創刊号でお願いいたしましたアンケートに、インターネット、ファックス等で多数ご回答いただき、本当にありがとうございました。これからの教育図書の活動の糧とさせていただきます。また、大勢の先生方より温かい励ましのお言葉をかけていただき、感激しました。気合いとプレッシャーの中、これからもがんばってまいりますので、よろしく願いたします。（編集企画部）